指導者育成･活用事業の企画と立案 Ⅳ（後半）

【実習】
日本ボートの10年後に向けた十策づくり

４．実習
「日本ボート１０年後に向けた十策」づくり

（ア）　実習の説明（実習のための材料）

- 「普及連鎖プログラム」
- これからの日本の「学校部活動」はどこへ向かうか

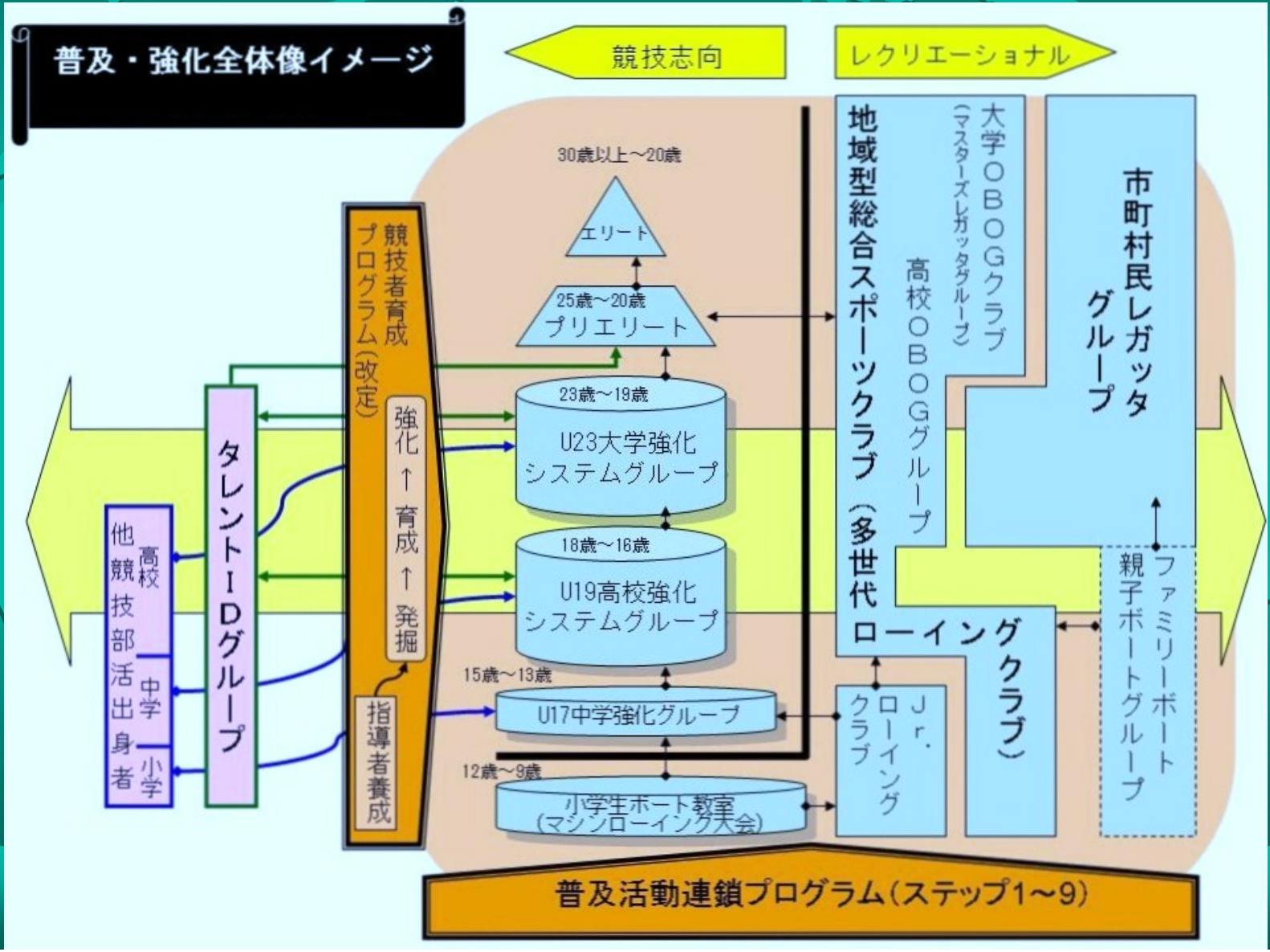
（イ）　実習

- 静岡での実践例をもとに

（ウ）　発表・意見交換

- ５分程度でプレゼンしてください！

（ア）実習の説明
「普及連鎖プログラム」



第一次リストアップ

【資料１】　競技者育成プログラム関連資料(第１次リストアップ)

作　成　内藤元巳 2012.08.24
資料情報　谷康史 2012.08.22

区　分	項　　目	日本協会,地方協会,団体等が保有する関連資料
1　プロモーション	1　ポート紹介ツール、冊子、DVD 等	■冊子：日本ポート協会、大学ポート部各自製作。(高体連、ポートサミット、都道府県協会はなし。全中連型ポスターあり。) ■Youtube：殆どの大学ポート部が毎年各自プロもーションビデオ製作。 ■VHS：日本マリンスポーツ普及教育振興財団製作「Enjoy Rowing 安全にローイングを楽しむために」 ■広報委員会保管：NHK 制作「テレビスポーツ教室」1981 横山厚志、1982 中島寿雄、1983 鈴木壮治、1986,1993 古川宗寿、2003,2007 杉藤洋志、
	2　プレスリリースマニュアル	■プレスリリース製作･配付･発信の手順書なし。 ■マスコミ電話･FAX 一覧:日本ポート協会事務局、各都道府県協会直接関与社のみ所有。 ■全国紙／地方紙電話･FAX･email を広報委員会所有。
	3　部員勧誘ツール	■大学ポート部が各自製作。日本ポート協会、全国高体連なし。
	4　指導者検索システム	■日本ポート協会事務局･専用 PC 設置済(日本体育協会 PC)
	5　クラブ設立・運営マニュアル	■文部科学省「総合型地域スポーツクラブ育成マニュアル」　ポートに特化したマニュアルなし。
2　タレント発掘	1　登録選手から発掘（大会･合宿プロー）	■マニュアルなし。高体連各ブロック強化責任者(日本ポート協会強化委員会スタッフ)が機能を果たしている。
	2　マシンローイングキャラバン	■なし。
	3　都道府県タレント発掘プログラム連携	■連携あり：和歌山県、東京都。協力のみ：福岡県。ポート協会タレント ID 必要。
	4　中学組織強化	■検討課題。
	5　他競技選手の勧誘方法	■なし。
3　選手育成	1　スキル獲得過程ステップの整理	■福門艇友会筏英信、江戸川大古城庸夫、東芝京浜 RC 小崎久光が各製作。各団体自作数枚程度のペーパーあり。
	2　エントリーレベルマニュアル	■杉藤洋志「漕ぎだそう、君も(認定インストラクター養成テキスト)」、鈴木政晴「Let's　Enjoy Rowing」、筏英信「ローイングマニュアル」、小崎久光「コックス養成講座Ⅰ･Ⅱ」、「ポート入門Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」、「スカル入門･Ⅱ」、神奈川県体育協会「高校生のローイング」、各団体自作の数枚程度ペーパーあり。
	3　エントリーレベル挫折防止策	■なし。
	4　デベロップメントレベルマニュアル	■デベロップメントレベルマニュアルなし。
		■指導者レベルマニュアルあり。日本ポート協会「Rowing for All」、日本ポート協会「漕艇コーチ入門」、漕艇コーチングマニュアル」。長内養暢春「ポート競技のコンデショニングトレーニング」、古城庸夫「コーチ学入門￥ポート競技の指導を通して」
	5　最新情報映像(開会式等で放映)	■Youtube：海外有力チームのレース映像が一般公開。
	6　年間計画モデル再構築	■なし。
	7　競技者カテゴリー制による R･T･R モデル構築	■なし。
	8　トップパーフォーマンス到達モデル	■なし。
4　トップ強化	1　強化ロードマップ	■なし。
	2　ナショナルチームシステム	■なし。
	3　プロコーチ受け皿づくり	■なし。
5　強化拠点	1　一貫育成拠点	■認定制度なし。
	2　ブロック強化拠点	■認定制度なし。但し事実上強化拠点となっている水域あり。
	3　ナショナルトレーニングセンター	■常時利用可：TNTC 戸田国立艇庫。期間限定：味の素 NTC。
6　指導者養成	1　クラブの公認指導者義務化	■なし。（発想の転換必要。）
	2　指導者ステージ別、都道府県別の計画的養成	■①認定インストラクター、②公認指導員、③公認コーチ講習内容について３－１～４関連見直し必要。 ■都道府県別、水域別の計画養成されていない。
	3　コーチング情報伝達システム	■セミナー等での情報発信のみ。
	4　フォロー研修(OJT 型･ポイント制)	■４年間義務研修中心。個別講習会あるが、資格取得⇒計画的フォロー研修ない。ポイント制ない。
	5　コーチカンファレンス	■未確認。
	6　公認指導者のメリット提供	■資格取得者のメリット薄い(受講者少ない原因)。
7　最新情報	1　情報入手	■JISS 等との連携未確認。
	2　情報分析	■JISS 等との連携未確認。
	3　情報利用	■未確認。

総合的なもの：日本ポート協会「競技者育成マニュアル」、小沢哲史「漕艇譜Ⅲ」

基本的な考え方：「競技者育成プログラム」は、「普及･強化全体像」のなかの縦軸として、横軸である「普及活動連鎖プログラム」と連動させ、両プログラムの相乗効果を狙う。

あるべき姿

【資料２】ブロック長･県協会理事長に提示した「あるべき姿」上段：状態　下段：数値目標　　2013.01.12　普及 PJ

ステップ	あるべき姿(2020 年)	目指すもの
１：コースの認定	1.乗艇しやすく、安全重視のコース整備と体制構築が行われている。	ハード、ソフト両面の安全システム構築。
	1　日ボのコース認定有無(A.B.C.F)。 2　安全責任者の任命（１名以上)。 3　水域の安全航行・安全ルールの策定。	
２：競技人口の拡大 ３：住民レガッタの開催	1　小学生ボート教室や親子ボート教室が開催されている。 2　小学生～高校生まで、一貫して同じ水域でボートを漕ぐことが出来る。 3　高齢者までボートを楽しんでいる。 4　自治体住民にボート競技が広く知られ、支援されている。 5　住民レガッタが毎年開催され、成年だけでなく小中高生も参加し、家族が水辺で楽しんでいる。	人口構成逆ピラミッド型⇒だるま型。 OBOG だけのの活動から地域密着型活動へ。
	1　年齢層別のボート人口を把握する。 2　レガッタ参加者が市町村人口の２%(市)、５%（町村)。	
４：指導員養成 ５：フォロー研修	1　卒業後もボートに関わり、漕ぐだけでなく、公認(認定)指導者・審判員として活動している。 2　資格所有者がメリット、やりがいを感じている。 3　学校部活は顧問教諭と外部指導者が連携している。 4　大会、合宿等で OJT の講習があり、２年に１回はフォロー講習が行われている。	「漕ぐ」から「支える」へ。 資格所有者を中心とした一貫指導･運営体制。
	1　ボート部出身者の５０%以上が協会、クラブで活動。 2　全加盟団体に公認指導員又はコーチ１名以上。 3　各水域にボート認定インストラクター５名以上。 4　各水域に B 級審判員１名、実動 C 級審判員２０名以上。	
６：自治体ボート協会設立 ７：協会の組織整備 ８：自主運営と継続	1　水域を所管する市町村に、自治体、都道府県ボート協会双方が参画したボート協会が設立されている。 2　協会内に普及・強化・競技・安全などの組織ができている（担当が明確化され、明らかにされている) 3　渉外、財務などが自主運営され、自治体の負担軽減が図られている。 4.安全確保と小⇒中⇒高から実業団に至る指導の一貫性が確保されている。	水域協会の日本型多世代ボートクラブ 機能。ブロック強化拠点づくり(戸田⇒地方)。
９：総合型地域スポーツクラブの設立	1　水域を所管する市町村にボートを中心とした総合型地域スポーツクラブが設立されている・ 2　財政を始めとした自主運営がされている。	学校･企業部活と並ぶ存在へ。部のない学校生徒の受け皿。
	日体協公認のクラブマネージャー資格保有者が１名以上在籍する。	

これからの日本の「学校部活動」はどこへ向かうか

- 「立法と調査」(2009.7　No.294)
- 「問われている部活動の在り方～新学習指導要領における部活動の位置付け～」
- 文教科学委員会調査室　関喜比古 著

「問われている部活動の在り方」

日本のボート競技人口の内訳

【協会登録選手の内訳】

大学	2689
高校	3669
中学	616
学校	**6974（83.1%）**
一般（実業団・クラブ）	1420

★ボートの場合、学校教育への依存度が高い

クラブ活動・部活動の歴史

- 昭和44年　教育課程としてのクラブ活動（週1回）※教育課程外
- 平成元年　部活動をもってクラブ活動とすることができる
  （部活動代替措置）
- 平成10年　教育課程のクラブ活動は廃止
  背景に「部活動が盛んになったこと」
- 「地域の青少年団体やクラブへの参加が増加したこと
  教育課程外としての部活動
- 平成24年　学習指導要領・課外活動の一環としての部活動
  →授業と異なり「授業時数として数えない」教育活動
  教育課程との関係が図られるよう留意する
  →地域の人々、各種団体との連携で運用上の工夫
  （配慮事項として新たに加えられた）

今回の学習指導要領の改訂

- 法的・制度的な問題点を解決しないままでの部活動の強化策（いわば学校と地域社会への丸投げ）である。
- 学習指導要領上のブレを始めとして、部活動に対する軸足が定まらないことが学校現場に諸々の問題を引き起こしている。（筆者記述）

部活動をめぐる諸問題

- 労働者として
  - 教育課程にはない「課外」活動である
- スポーツの指導者として
  - 競技経験がない指導者が多い
- 一人の人間として
  - 家庭・家族を犠牲にしてまでも

我が国の中学・高校における部活動

- 国際的にはかなり特異な存在といえるのではないだろか。
- であれば、学校の部活動を我が国独特の”教育・スポーツ文化”の一つとして位置付け、単に教育分野だけでなく地域活性化の起爆剤として役立つ。

30年前に米国で出版された『ジャパン・アズ・ナンバーワン』の中でも、日本の学校でのクラブ活動（部活動を指す）について、

- 「緊密なクラブ活動を通じてグループ生活を楽しみ、同時に仲間との協調、利己心の抑制を学ぶ。
- こうした態度を学校生活の中で学ぶことは、のちの社会に出て就職しても、仲間との長期にわたる思いやりのある人間関係を作ることに役立つ」

として高く評価された。

学校部活動としてのボート（現場の現状）

【ひずみ】

- 安全の確保
  - 常に指導者が活動場所にいなければならない
  - 救助艇の船舶免許取得
  - 水上スポーツへの社会の厳しい目
- かかる費用
  - 艇の購入、保有にかかる費用
  - 大会参加への艇の運搬
  - 高額な参加費（出漕料）
- 指導者
  - 競技経験者ではない教員
  - 多くのOB/OGによる無償サポート頼み

「学校部活動としてのボート（現場の現状）

【効果】

- 教育的効果が高い
  - 協力・協調
  - 整理整頓・環境美化
  - たゆまぬ努力

教育振興基本計画の中の部活動

- 学校体育及び運動部活動の充実を図るため、外部指導者の積極的な活用を促す。
- 多様なニーズに応えるため、学校の実態等に応じて近隣の学校と合同で運動部を組織し日常の活動を行う複数校合同部活動等の取組を促す。
- 部活動を学校の教育活動の一環だと位置付けたからというで、すべての教員がそれに関わるべきかというと、決してそうである必要はなくて、教員以外に部活動をきちんと担う、技術的指導を行う外部人材、スタッフをそろえることや、対外試合の引率をはじめとする責任者も教員以外の職員を配置することで対応していくことも重要ではないか。（小川）
- 部活動専門スタッフを入れ、教員には授業に集中してもらう。その上で、部活動顧問をやりたい教員には過度な負担とならないような支援や配慮をした上でやっていただく。その場合でも、部活動の休息日、週休日の代替などのルールを整備した上でやるべき。（小川）
  - 愛知県犬山市では部活動指導員を市費で採用し、中学校部活動を積極的に支援している自治体も見られる。

おわりに

「予算面・定員面での”受け皿”が整わない以上、とどのつまり、部活動を「生徒の自主的活動」という原点の戻して対応していくことが、顧問教師の長時間労働などなどの諸課題に取り組むための重要なポイントではないかと考える。」

と結ばれている。

学校部活動に依存しているボート未来はあるのか？

学校五日制になった折(2000年)、学校から部活動を切り離し、子どもを地域へ返す動きがあったが、受け皿（総合型地域スポーツクラブ）が整わず、また学校へ戻されてしまった。
この間にサッカー、卓球は非常にうまい方法で商業ベースのクラブを設立させ強化の効果も上げている。

学校部活動への依存度が高いボート競技にとってこれは大きな危機である。学習指導要領の大きな改訂は10年に一度。10年後までに学校教育への依存度を下げ、クラブ化あるいは指導者派遣のシステムを構築しないと強化どころかボート部の存在が危ない。
大学をイメージしていると非常に危険である。中学・高校では学校サイドは部員数が減るのを待って廃部にしたいと思っている。金もかかり、指導者も必要、しかも危険な競技と思われている。

（イ）実習
「日本ボート10年後に向けた十策」づくり

- 日本ボートの「課題・弱点」は何か？
- 日本ボートの「強み」は何か？
- ↓

「つないで解決」はできないか？

（イ）実習
「日本ボート10年後に向けた十策」づくり

【軸】
中央－地方　競技者－愛好者　現役－OB/OG
選手－指導者　子ども－保護者　選手－審判
男子－女子　学校－クラブ　日本代表－初心者
ジュニア－マスターズ　資格－無資格

★あらゆる角度から考え、どの角度からでも
★できるか否かは不問、「こうなりたい」という姿
★「やってほしいこと」ではなく「自分がやりたいこと」
★「日本ボート」でも「自分の水域」でも

（イ）実習
「日本ボート10年後に向けた十策」づくり

【JARA・静岡県協会としての取り組み　例】

課題・弱点

- 国内のボート事情に関する情報が流れていない
- 大会プログラムが出場者向けで売れない
- 選手に次世代の日本代表である意識がない

強み

- 静岡県協会が管轄している大会である
- 関係者にJARA関係者がいる
- JARAとしての蓄積データがある

祝・第 24 回全国高校選抜ボート大会 出場

みんな ここから始まった・・・

CrewJapan 2012

全国高校選抜ボート大会　戦歴

		最近のエルゴ値(SR)
【ロンドン五輪代表】		
武田大作（ダイキ）	未出場	6:29.6
浦和重（NTT 東日本）	未出場	6:18.8
岩本亜希子(アイリスオーヤマ)	W1x5 位	7:12.2(34)
福本瑠子(明治安田生命)	W2x6 位	7:27.5(34)
柳原春奈(早稲田大学)	未出場	7:04.4(32)
【世界選手権　代表】		
田立健太(戸田中央総合病院)	未出場	6:22.0(37)
大元英朋(アイリスオーヤマ)	M1x4 位	6:25.9(37)
光岡紘輔(明治安田生命)	M2x 優勝	6:32.7(32)
佐藤芳則(明治安田生命)	M4+2 位	6:26.1(35)
飯田綾(NTT 東日本)	M4+準決勝 4 位	6:21.9(38)
岡本和祥(NTT 東日本)	M1x 準決勝 3 位	6:36.1(35)
中野紘志(NTT 東日本)	未出場	6:25.9(35)
西村光生(NTT 東日本)	M2x3 位	6:25.0(35)
須田貴浩(アイリスオーヤマ)	M1x 予選敗退	6:25.4(35)
小藤[illegible](東レ滋賀)	未出場	Cox
池田裕紀(トヨタ紡織)	M4x+6 位	6:28.1(38)
小谷健太(トヨタ紡織)	M1x 準決勝 3 位	6:26.4(36)
塚本[illegible](トヨタ紡織)	M4x+7 位	6:25.9(36)
西川勝[illegible](トヨタ紡織)	M4x+3 位	6:23.9(35)
片岡[illegible](明治安田生命)	M4+3 位	6:24.4(35)
浜田裕太(明治安田生命)	M4+予選敗退	6:26.6(37)
首藤多佳子(明治安田生命)	W1x3 位	7:30.6(34)
大石綾美(早稲田大学)	W1x 優勝	7:17.7(33)
林真奈美(デンソー)	W2x 優勝	7:13.6(32)

次は・・・君たちの番だ!!

一緒に世界を目指さないか？

強化委員会 JARA

あれから11年…

- 日本では、2001年に香川と北海道で死亡事故
- 重要な事故・インシデント(ヒヤリ経験)は発生しています
  - 危険に対する備え、適切な安全対策を忘れずに
- 事故の傷みに思いをはせ、安全について考えていきましょう

安全なスポーツ どこにもない！

- 卓球でも死亡事故
  - 小1、父が置んでいた卓球台に顔をはさまれ死亡
- ボート(水上スポーツ)の危険
  - 不注意、不真面目が、直接命に関わる
  - 制御できない自然相手
  - すぐには救助できない

※知っていると
知らないのでは「雲泥の差」！

ボート死亡事故：54件110名/日本

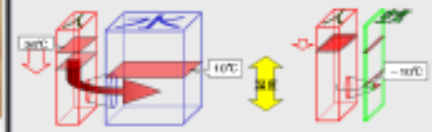
- 気象環境が60%⇒気象対策で事故の半分以上が防げる？？
- むしろ、基本的な技術、総合的な安全対策が必要と再認識しよう

気象サイトの活用

- 気象庁のホームページ:「ナウキャスト」
  - 雨・雪・竜巻の予測（1時間後まで）
  - 活動度4：落雷多発
- ウェザーニュース「雨雲レーダー」

水中にいたほうが良い？？

人体⇒水・空気への熱移動，体温低下
（熱の水槽モデル）

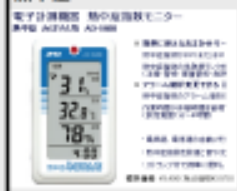


- 水は空気の1000倍の熱容量　＝大量の熱を奪える
- 水は空気の25倍の熱伝導率　＝　熱の移動が速い
- 結論：　水は空気よりも速く体熱を奪う(＝体温低下)
- 対策：　極力，体を空中に出す
- 限界時間の把握：　持続限界(分)≦水温℃×3

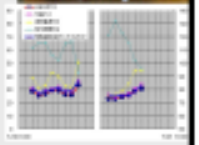
落水・低体温症対策

- 低体温症：　33℃以下で生命に危険！
  - 力が分散している状態で、甘く見ない、重症が急激に悪化することもある
- 落水・救助したクルーの処置
  - 体熱を奪われないように毛布でくるみ暖かい環境に
  - 安静第一で、「刺激せないこと！」(心臓に負担をかけないため)
  - 温泉マッサージはダメ!!(冷たい皮下の血液が急激にしらべる危険)
  - 状況を見て、必要なら救急車(119番)

熱中症



- 温度・湿度計によるリスク把握
- 近似的なリスク指標
  - （温度+湿度/6）×2＝危険度



「Rowing 安全マニュアル」より講習会プレゼン資料抜粋　　安全衛生委員会

JISS
Japan Institute of Sports Sciences
国立スポーツ科学センター

国立スポーツ科学センターは
我が国の国際競技力向上のために
スポーツ科学・医学・情報の拠点として
トップアスリートをサポートします。

タレント発掘・育成事業とは何か

偶然性の最小化

「スポーツの成功における偶然的要素の最小化に努めています。自分がどれ程優れているかに気付いていないアスリートが多くいます。彼らをしっかりと計画されたプログラムへと取り入れて、ハードワークを積み重ねれば、メダル獲得の可能性は現実味を帯びてきます。」

Chelsea Warr (Head of Athlete Development, UK Sport)

タレント発掘・育成とは

- タレント選別 talent identification (detection)
  - ある特定の競技で成功するお質のある者を識別する（見つけ出す）ために、1人ひとりの身体、技能に及ぼ、その競技の継続を問はずに手足を中域人をスクリーニングすること
- タレント選抜 talent selection
  - ある特定の競技で成功すると考えられる競技者を選別するために、コーチの経験やテストにより、現在ある特定の競技に参加している若年競技者を探いにかること
- タレント育成 talent development
  - スクリーニングされた才能ある者を、系統的・計画的なプログラムに従って育成すること

B. Vaeyens et al. Talent identification and development programmes in sport. Sports Medicine. 2008, 38(5): 703-714.

Victoria Thornley

- 24歳（1987年11月生まれ）
- 192cm
- 2007年に発掘 "Sporting Giants"
- U23世界選手権で優勝（2009年）
- 世界選手権（W8+）3位（2011年）

ロンドンオリンピック 5位

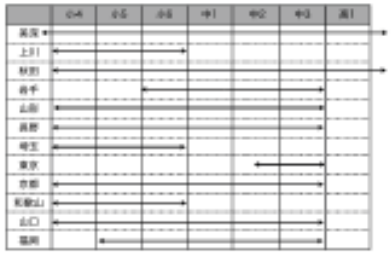
Helen Glover

- 25歳（1985年6月生まれ）
- 2008年に発掘 "Sporting Giants"
- 世界選手権（W2-）2位（2010年）
- 世界選手権（W2-）2位（2011年）

ロンドンオリンピック 金メダル

日本スポーツ振興センター（JSC）と連携する
１２の地域タレント発掘事業

地域タレント発掘育成事業における育成年代



（日本スポーツ振興センター情報・国際総合研究室、2012）

ボート競技は和歌山県、福岡県、岩手県、東京都が取り組んでいます。

【参考】 和歌山ゴールデンキッズ　１期生（３名）
平成24年度　全日本中学選手権　1x優勝・2x優勝
東京都ジュニアアスリート発掘育成事業
平成24年度　岐阜国体　少年女子1x優勝

JARA
広報委員会

ボート指導者の区分

	公認上級コーチ	公認コーチ	公認指導員	認定ボートインストラクター
養成団体	（公社）日本ボート協会 （財）日本体育協会	（公社）日本ボート協会 （財）日本体育協会	（公社）日本ボート協会 （財）日本体育協会 都道府県ボート協会	（公社）日本ボート協会 都道府県ボート協会
役割	国際的な選手に人間的にも優れた資質を持ち高い指導・実践能力・知識を有する指導者として、ロップアスリートの育成・強化にあたる。また、日本ボート協会において強化スタッフの中心的役割を担い、競技者育成システムの推進活動や研究開発に参加する。	国体、インターハイ等の全国大会に出場レベルクルーの指導、能力と資質に適った指導で有望競技者を育成。	学校・地域クラブの指導者として、初心者からの幅広いレベルの競技者を対象に、ボートの基本技術と安全教育をうけ、各人の能力を引き出し、育成する。	利用者及レガッタのボート教室等で、基礎的技術と安全指導にあたる。
受講資格	オリンピック・世界選手権・ワールドカップ・アジア選手権・U-23・U-19の日本代表選手、または前記大会監督・コーチ経験者。指導歴10年以上で都道府県ボート協会が推薦した者で日本ボート協会が認めた者。	競技歴3年以上、及び日本または都道府県ボート協会が主催する大会出場歴を有する者、若しくは公認ボート指導員資格を有し、指導歴3年以上を有する18歳以上の男女。競技者育成のために、より高度な知識・技能の習得に意欲のある者で、都道府県ボート協会が推薦する者。	競技歴または指導歴2年以上を有する者、若しくは認定ボートインストラクターの資格取得を有する18歳以上の男女で、ボート競技及びボート競技指導者としての基礎を学び、また自ら学び続ける意欲のある者。	地域ボートクラブやボート教室等でのボート競技体験、または指導経験5年以上を有する18歳以上の男女。若しくは日本ボート協会認定指導員資格を有する者で、利用者若しくはクラブなど地域ボート活動に対して、基礎的技術と安全指導に関わる意欲のある者。
講習内容	●共通科目（中首・存合計 102時間） （事会52時間・自宅130時間） ●専門科目　合計 44時間 （事会40時間・自宅4時間）	●共通科目（中首 合計 102時間） （事会40時間・自宅112時間） ●専門科目　合計 60時間 （事会40時間・自宅20時間）	●共通科目　講習教育 30時間 ●専門科目　合計 42時間 （事会32時間・自宅10時間）	●集合講習 3時間
受講料	合計 61,000円 共通科目：46,300円　専門科目：15,000円	合計 28,400円 共通科目18,900円　専門科目10,500円	合計 35,700円 共通科目21,000円　専門科目14,700円	10,000円
有効期間	4年間	4年間	4年間	4年間
更新	ボート競技の資格者は、選日本体育協会が認定する都道府県体育協会が開催する講習会・研究会等または、日本ボート協会が講習会等として開催する講習会・認定講習会を含む（若しくはコーチングカンファレンスを、資格有効期限内に1回以上受講するか、講師または発表者として参画しなければならない。			資格更新を希望する者は資格有効期限内に、日本ボート協会が認定、若しくは指定した研修を、最低1回は受講しなければならない。

成長過程にあわせた指導

	発達の特徴	精神的側面	技術的側面	体力面
Ⅰ期 ～9才頃	・神経系 ・短い集中力	・スポーツへの好奇心 ・競争や攻防の面白さ ・成功体験～運動の定着	・巧みな身のこなし ・基礎的な技術・動作 ・多様なスポーツ体験	・無理をしないこと
Ⅱ期 10～13	・筋持久力 ・全身持久力 ・呼吸・循環系、 ・二次性徴 ・達成要求	・スポーツ継続の意欲 ・適切な目標設定 ・フェアプレイ：ルール遵守、対戦相手の尊重 ・個人に応じた課題、自ら考え工夫選択	基礎技術 専門技術 ・多様なスポーツ体験、ある程度の専門化 ・基礎技術～専門技術	・持続性（粘り強さ） ・トレーニングの基本
Ⅲ期 14～18	・体格・体力・運動能力の充実 ・アイデンティティ確立	・競技者としての自覚 ・自己分析能力 ・競技の長期目標設定 ・競技者としての人間教育	・専門技術	・スピードとパワー ・自主トレーニング ・本格トレーニング＋障害防止
Ⅳ期 19歳～	・身体能力のピーク （競技によりピークの年齢は異なる）	・トップ選手としての責任感 ・競技への執着 ・国際性：外国語、マナー、コミュニケーション ・世界を見据えた自己分析と新たな課題 ・全力発揮のための精神面の強化	・専門技術の完成 ・世界に対応した技術、戦術	・ハードTr. に耐えられる体力強化 ・世界に対応した強化・調整 ・ピークの長期化 ・世界大会での好成績獲得

『公認指導者資格の義務づけ』他競技比較

海外と公認指導者資格の義務付	H24.5.17	H20.10.22
サッカー	1位　137.5p	1位　146.7p
水泳	2位　127.5p	7位　115.5p
空手道	3位　121.5p	4位　131.3p
ボート	26位　75.5p	29位　84.0p

主要 42 競技団体中の順位
「日体協　国体実施競技選定評価」より

★平成25年度　東京国体より、監督は公認資格（指導員・コーチ）が必要となります。

★『Rowing For All』の全面改訂を進めております。

JARA
指導者育成委員会

（イ）実習
「日本ボート10年後に向けた十策」づくり

【静岡県協会としての取り組み 例】

課題・弱点

- 全国大会なのに観客が集まらない
- 関係者以外、会場に来ない
- 高体連（学校部活動・高校）の大会である

強み

- 天竜区の全小学生はボート体験をしている
- 県ボが新しい試みに協力的である
- ﾏｼﾝﾛｰｲﾝｸﾞ普及大会で無関係の人を参加させている

第24回

全国高等学校選抜 ボート大会

24th National High School Boat Competition

平成25年3月

22(金) 23(土) 24(日)

浜松市天竜ボート場

種　目(距離は全種目とも2,000m)

[男子] 舵手つきクォドルプル・ダブルスカル・シングルスカル
[女子] 舵手つきクォドルプル・ダブルスカル・シングルスカル

主催
(公社)日本ボート協会　(公財)全国高等学校体育連盟　浜松市　中日新聞社

主管
全国高等学校体育連盟ボート専門部　中部ボート連盟　静岡県ボート協会

後援
総務省　文部科学省　静岡県　静岡県教育委員会　(公財)静岡県体育協会
NHK静岡放送局・浜松支局　(財)地域活性化センター　(財)浜松市体育協会

この事業は(財)地域活性化センターのスポーツ拠点づくり推進事業の支援をうけて実施しています。

[大会情報]…静岡県ボート協会ホームページ　URL http://www.inh.co.jp/~sara/

はままつ観光大使 おさかな家康くん

小・中学生 対象 ポイントラリー

ボートクイズに答えて賞品をゲットだぜ！

無料シャトルバス

毎日 先着50名!!

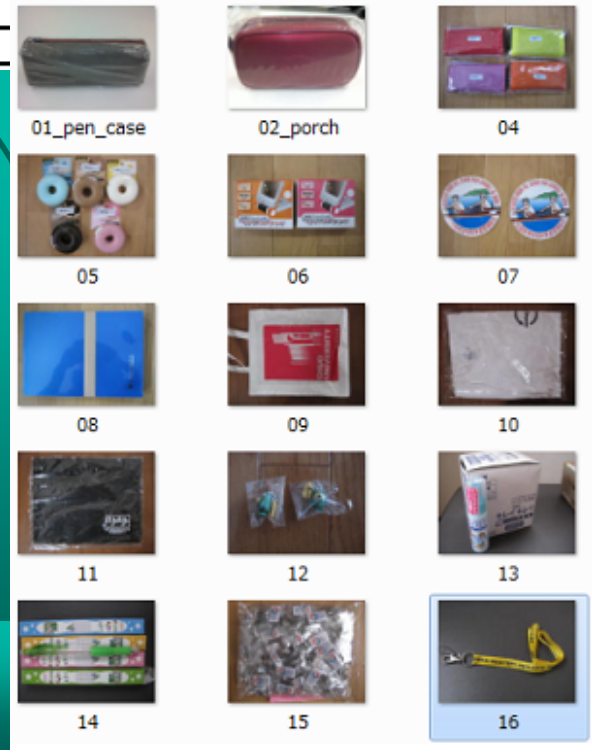
西鹿島駅→ボート場
9:00　11:00　13:00
ボート場→西鹿島駅
12:00　14:00　16:00

正解者にはWチャンスが！

3/23・24 (土)(日)

静岡県ボート協会 検索
くわしい大会情報はこちら

No.	提供先	内容	個数
1	シマノ	ペンケース（20cm X 8cm X 5cm）	25
2		ポーチ（22cm X 14cm X 6cm）	9
3	ミネルバ	オリジナルショルダーバック	50
4	天竜楽漕クラブ	トートバッグ	約50
5		メンディングテープ	38
6		モバイルスタンド	11
7	会津楽水会	高体連シール	約100
8	瀬田漕艇クラブ	クリアファイル	約60
9	中央大学	中央大学トートバック	26
10		中央大学Tシャツ	10
11	東京ボート協会	東京ボート協会トートバッグ	16
12	浜松西高OB会	旺文社マスコットコーホルダー	約80
13		キレイキレイ	9
14		シャーペン	31
15	日本ボート協会	2020東京オリンピック招致ピンバッジ	100
16		2012マスターズレガッタ　ネックストラッ	約100
17	桑野造船	帽子	
18		Tシャツ	
19			



←賞品に集まった品々

駅までの無料バス

↓

シャトルバス時刻表〔3月23日(土)〕

号車	西鹿島駅	山東臨時バス停		市民運動広場(船明)		天竜ボート場（月）		市民運動広場(船明)		山東臨時バス停		西鹿島駅
	発	着	発	着	発	着	発	着	発	着	発	着
①			8:50	8:55	9:00	9:10						
②			9:05	9:10	9:15	9:25						
③	9:00	9:10	9:15	9:20	9:25	9:35						
①			9:35	9:40	9:45	9:55						
②			9:50	9:55	10:00	10:10						
③			10:05	10:10	10:15	10:25						
①			10:20	10:25	10:30	10:40						
②			10:35	10:40	10:45	10:55						
①			11:10	11:15	11:20	11:30	11:40	11:50	11:55	12:00		
③	11:00	11:10	11:20	11:25	11:30	11:40	12:00	12:10	12:15	12:20	12:22	12:32
②			11:45	11:50	11:55	12:05	12:15	12:25	12:15	12:20		
①			12:10	12:15	12:20	12:30	12:40	12:50	12:55	13:00		
②			12:30	12:35	12:40	12:50	13:00	13:10	13:15	13:20		
③	12:35	12:45	12:50	12:55	13:00	13:10	13:20	13:30	13:35	13:40		
①			13:10	13:15	13:20	13:30	13:40	13:50	13:55	14:00		
②			13:30	13:35	13:40	13:50	14:00	14:10	14:15	14:20		
③			13:50	13:55	14:00	14:10	14:30	14:40	14:45	14:50	14:52	15:02
①			14:15	14:20	14:25	14:35	14:45	14:55	15:00	15:05		
②			14:30	14:35	14:40	14:50	15:00	15:10	15:15	15:20		
①			15:10	15:15	15:20	15:30	15:40	15:50	15:55	16:00		
③			15:30	15:35	15:40	15:50	16:00	16:10	16:15	16:20	16:22	16:32
②			15:50	15:55	16:00	16:10	16:20	16:30	16:35	16:40		

（イ）実習
「日本ボート10年後に向けた十策」づくり

【軸】
中央－地方　競技者－愛好者　現役－OB/OG
選手－指導者　子ども－保護者　選手－審判
男子－女子　学校－クラブ　日本代表－初心者
ジュニア－マスターズ　資格－無資格

★あらゆる角度から考え、どの角度からでも
★できるか否かは不問、「こうなりたい」という姿
★「やってほしいこと」ではなく「自分がやりたいこと」
★「日本ボート」でも「自分の水域」でも